

錦繪物産因智乾



IE
4265
1



特
目
4265
1

伊藤

大日本物産圖會

磨砂ハ山田郡長久山より
出テ礦屬トシテ其色白
ト雪ノ如ク其用銅鐵ト磨
キ墨表ト製スルニ利
又石ト節ヒ香具ト和
紅トシテ齒磨藥ト
紫スルヲハヒ
以砂ハ白亞ノ種ヲ
粘クトシ

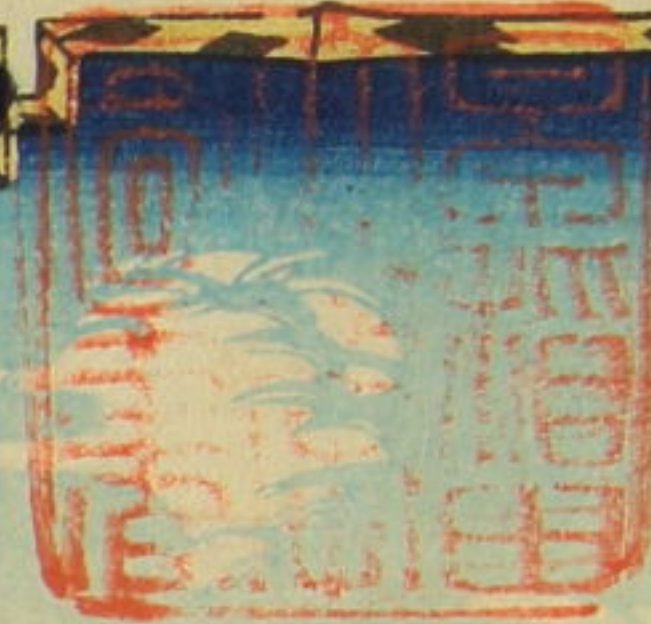
伊賀國磨砂



伊賀國磨砂

大日本物産圖會

石炭ハ長野笠取産
産テ礦屬トシテ其色



大日本物産圖會

石炭ハ長野笠取郷より
産ナリ礦屬にして其色漆
の如ク山中深く掘入と出
と金山とあるト其用木炭
より火氣倍せるより
蒸氣の力を用ゐる物及び
金石と鑄鑄する物
用ひざるは又油と
て燈火に用ゆ

同國石炭山之國



画工 大鍋町四番地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

伊勢の國和浦に座浦大野
の三ヶ所は鮫の二見うら
北葦原の鮫と製すあかや
るの必ず女海人の業は但
女の母長と故也沖あぐ出
るに親屬を見して心を
大いせ腰に網袋を付て
海にふり岩につれ鮫を
と管のて又意のあはし腰
のゆけはなあり海はあ
むり五尋より十ひち十五尋
とくまるとは深きとらひ
とふ網を付てくむ也

伊勢國鮫採之圖



大日本物産圖會

あひびの太小にうけて敷業
とまのり横うらすき及
りめよと薄くくとま



日本物産圖會 伊勢國鮫採之圖

大日本物産圖會

あひびの太小にうけて数葉
 をとり横よりうすき及
 りのうて薄くくとまじ
 むさびくと豊後とさうり
 老たせりへくろくちちあり
 故よあのかむりうの目とお
 ひちり本末のちるい束ぬる
 があちりさきとそとそシ
 とのふいおしおあひびと
 のひて裁切てあひびの食
 料とせりなる故に又干鮑
 とすあひびと云ふ外螺蟹ノ
 シ海老ノミの種あり

同國長鮑製之圖



画工大徳町四番地 安藤忠三郎出

日清入毛付道三島製鮑ノ有子三郎



大日本物産圖會

鳴海瀬りと称す愛知郡
有松にて多く産す織物
と鹿の子立しぼりた
すきありのひの雲竜竹ま鹿
の類種は雨やをり瀬瀬
藍紅とらにぞ深あが
たりのありそ最夫也
綿布を以て深なる物と
浴衣洋衣小にりちひ
まの詰布よそあほり
たりのあり

尾張國有松瀬り之圖



大日本物産圖會

扇ハ愛知郡名古屋
て多く出れば名古



出度日本物産圖會大日本

大日本物産圖會



由原八尾物産図會

大日本物産圖會

扇ハ愛知郡名古屋
 て多く出れば名古
 屋扇の名あり支那製
 紙詰と強る本骨へす
 竹朱丹玉子糸の
 金銀のぞろがんと
 鳥虫山水を彫刻し
 最美

尾州名古屋扇折の図



画王大鐸町繪地 安藤徳兵工

大日本物産圖會

漆樹ハ雌雄ノ二種アリ
雌木ハ実ヲ結ビ蠟ヲ取リ
雄木ハ実ハ別漆トシ
時侯ハ半夏生ヨリ初
十月ヲ終リテ取法樹
段々傷メ付ロクハ流
夜ニ鉄ノ莧ヨリ掻取リ
付ラ竹ツノ後ニ枝ヲ切
水ニ浸シ傷メ付テ液ヲ搔
同國漆取之圖



大日本物産圖會

八名郡名倉とりの地より
切出ル故亦名倉砒の名



大日本物産圖會

八名郡名倉との地より
切出の故の名倉砥石の名
所り山中砥石の苗と逐
深く掘入四角ふ長く切
出して四本づゝ馬に付
て里より青白砥石
と異り薄く理あり
て主實滑まり刀剣刺
刀等にも用ひ又合砥とも

三河國名倉砥石切出圖



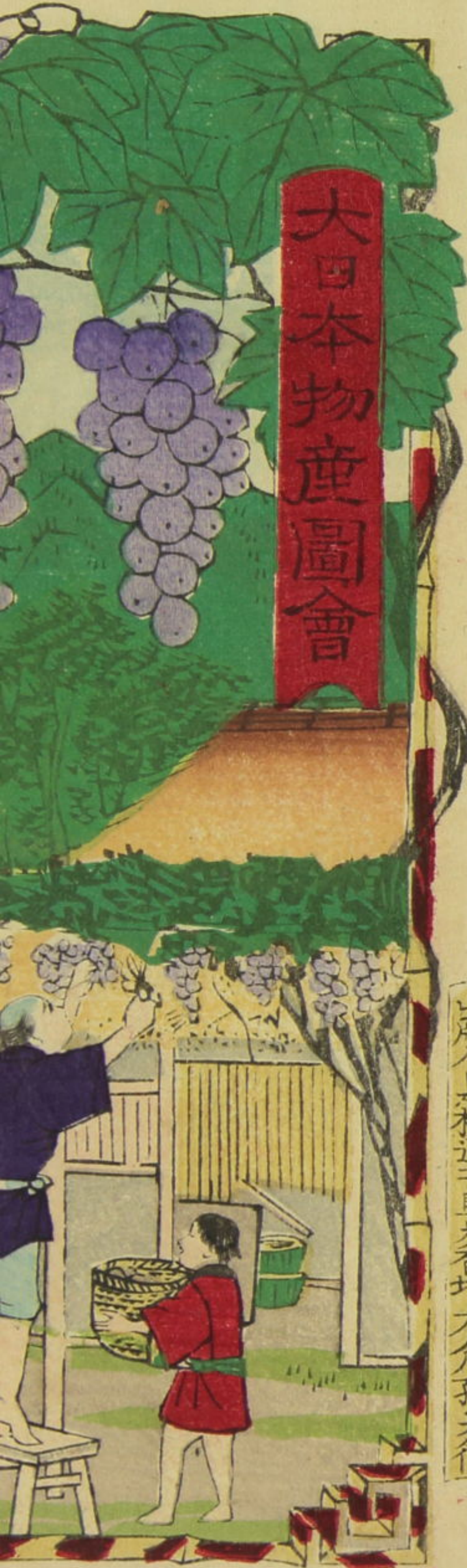
大日本物産圖會

枳^{カキ}の當國^{サレ}処々^{キヤク}より産^ウば喬^{キョウ}
 木^キは^ニく其^ノ実^ノ大^ニ多^クり四^ノ月^ノ
 頃^ノ花^ハ開^キき九^ノ月^ノの以^テ実^ハ熟^ス
 す是^レを摘^ル皮^ヲと剥^キきその
 蒂^ノと^ノ繩^ヲと^ノま^キて
 数^ノ條^ノに^ツか^レ乾^カき
 後^ノ画^ノの中^ニ列^スへ蓋^ヲと^シ掩^フ
 ひ久^クし^キと^シ經^テて白^ク霜^ヲと
 生^ズち^ニ則^チち白^ク枳^トと^シ称^スは味^ハ
 甘^クく^シと^シ甚^ク佳^クなり

甲斐國白枳製之圖



大日本物産圖會



出版人 早稲通子 早交番地 大倉孫兵衛

一ノ...



大日本物産圖會

葡萄の山梨郡岩崎村
 小産ちると殊よ好と久
 蔓草にて春花と用き
 秋実と結び垂下りと藤
 花の如く熟するに至りて
 雅容棚下ふあふ多り不
 と加ふむけ共席空まの
 る葡萄と悉く求るる
 なほむ又近年多くふ
 酒乾を五月の栗ホと製

甲斐國葡萄培養圖

出版人 長瀬通三 卓及番地 大倉孫兵衛



甲斐國白柿製之圖

柿の皮と葉を
 数條につなね乾き
 後画の中列へ蓋と掩
 ひ久しきと経て白霜と
 生ず則ち白柿と称し味
 甘くして甚佳なり

大日本物産圖會

炭の豆別天城山妻良
 小浦より多く出す山
 中土とせりつて大いなる
 焼竈とほろり櫛相煙の
 木等を建お並の色々
 火をほいこゝろあやと
 燻やきほろりく製す
 こゝ小堅硬なるもの
 ヒンチャウと称すこれ
 ウバガシ多く焚くる物
 あり

同 炭焼場之圖



炭焼場

大日本物産圖會

當國新島三宅島其他
 七島中樟樹の多きこと
 本邦第一とす山野自

出陣人日本精進三年文政六 大倉内子有

大日本物産圖會

當國新島三宅島其他
 七島中椿樹の多きこと
 本邦第一とす山野自
 生してその花を艶麗
 なる花わけて後實残
 びす土人これを採りて
 白みく搗袋に入れて木
 ふうけ油と搾るるは色
 ろろく澄清うつくし
 らば洋州のホルト油
 勝り

伊豆國椿の油と取圖



画 大鋸町畚地 安藤徳兵衛

比叻人 在 檳榔 樹 下 年 方 書 六 大 尾 五 科







真
武蔵國浅草海苔製圖

大日本物産圖會

海苔ハ本邦第一の名産
 多く荏原郡品川大森より
 出たり古浅草川に産せし
 ても以て浅草の名あり冬節海
 濱の柗等々の枝とまると
 潮の引と待て枝の附る苔と
 採り他物と摺り却て紙の如く
 漉し竹箆成し干し拾枚と帖
 と定て諸国に出す近世カラス
 の瓶の貯て夏日食用の供す

武蔵國浅草海苔製圖



名御膳乾海苔野

大日本物産圖會

大日本物産圖會

安房の北面上総の山脈
 連り東西南の海に接す
 故土地暖く多きなり
 水仙花秋の末より花
 づり多く海濱の自
 生し最美麗なり四
 葉一窠みく莖上り
 花と筒六辨りと清香
 あり多く終りに出
 く挿花に供す

安房國水仙花



江戸日本橋三軒茶屋

大日本物産圖會

鯉の安房郡布部村朝
 手郡千倉平館の浦々
 引て漁す季秋の頃より
 鯉群集あちとるを百箇
 余の網と東西へひき籠
 網中江へとるを岩と懸
 引あゆ諸船へ魚を採
 のは塩みりて東京に出
 十太漁のさか一網十方
 より廿方尾よる

同國鯉網之圖



画大錦翠島 安藤徳兵衛

江戸人見物遊覧三才集六右子三行



葛餅千葉の両郡にて
おろく畑より作る葛餅
みりて実め大さな餅

大日本物産圖會



下總國葛飾郡製造之圖
野田の葛餅は上品にして合
合入と一樽と定む

大日本物産圖會

醬油と葛餅郡野田
海上鮭子等より出すと
野田小麥と炒り大豆
み和して麹と冷や塩
と味して大桶より入れ
熟せしむる布の袋に
包みて入るに推り樽
は詰り諸國不出す就中
野田の葛餅は上品にして合
合入と一樽と定む

東海物産圖會

大日本物産圖會

葛飾千葉の両郡にて
おろく畑よ作る蔓草
みづく実め大さ冬瓜
のこくと七八月のそら
く其をと皮は青黒色
去々中ハ紅色ありま
外皮白青色しりて中
黄るりのあり水多く
て味甘く暑熱と消す
りのぬる

同 西瓜畑之圖



画 大鋸町四巻地 安藤徳兵衛



画 大鋸町四巻地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

皇國第二の産物たる道茶
法方より作るとし、その宇治
と上等と云ふは、安芸と下と
六年同り、て摘むるは、
一、株より九、三、四、五、上り七、五、肉
お、九、同、八、年、三、七、同、九
年、三、八、五、同、十、年、三、七、
二百五、五、同、年、上、り、お、八、人、
主人、一日、一、同、摘、む、と、云、業、と
し、約、曆、五、月、より、摘、初、十、日、の、内
に、摘、む、と、云、余、日、と、云、す、
何、れ、と、云、ふ、と、云、く、な、り、て、上、品、
の、茶、と、云、ふ、と、云、ぬ、り、の、ゆ、り、

山城國宇治茶摘圖



大日本物産圖會

茶の製法は、生茶二十日と
下蒸乾し、お、上、り、
下、蒸、乾、し、お、上、り、
下、蒸、乾、し、お、上、り、



茶の製法は、生茶二十日と
下蒸乾し、お、上、り、
下、蒸、乾、し、お、上、り、
下、蒸、乾、し、お、上、り、



茶の製法は生茶二十日
 下蒸乾し初上り茶
 多子く麻上ケ邊の上は擦
 ちじ茶を編つてあぶきさ
 助茶一五百目程入ちんく
 揉みあげ茶とよる色茶
 茶の葉のまらお唐ひ箕
 おとり振るのろ一じり
 くうれまのいんく水気
 かりさく時濃飯は包と壺
 入貯る茶と茶の品佐と
 室お少の揉茶と茶
 向とえんむ

大日本物産圖會

宇治茶製之圖二

葉茶製之圖

生茶製之圖

蒸茶製之圖

大日本
 宇治茶

大日本
 宇治茶

大日本
 宇治茶



大日本物産圖會

葛ハ山野の自然に生る蔓草なり。春旧芽より新芽と生じ、莖葉ありて葉茎は毛あり。秋葉の間より穂を生じ、花は白く、豆の花に似く、紫赤色あり。後葉と莖葉その根より紫より肉白色なり。この根を冬より春の発芽のとれまきでり鶴とて、よそよりとりまきあつひ石盤のうへに打爛し、桶におと入中あてりこゝろすなり。

大和國葛根掘圖



大日本物産圖會

和りて出汁を布の袋にひき振り、再び木桶に袋をひき、一日の間乾き、上水と接



大日本物産圖會

和國葛之粉製法
 相りて出、汁を布の袋
 に入れて絞る。再び木桶に入れ、
 一日の間静置して上水を絞
 り去る。七乾、夜不付、五
 き粉を別、久浸、桶入
 て、久煮せ、汁を去る。水
 ひ上水と絞、此を再三及
 て乾、くると灰と布を煮、
 晒置し、乾して日干す。是を
 灰とす。とり、灰の手を前
 の如く、水干する。七、八、
 して後、厚紙を煮、くると
 粉、入日干す。此が和葛粉也。



大日本物産圖會

河内國

凡草綿くさわたんハ蚕かいノ次つぎニ糸いとヲとり
布ぬいヲ製つくシ人間にんげんノ用もちヲなす
工わざト廣ひろクありまづ四月しがつノ中なか
小種こたねヲ蒔まキ五月ごがつノ末すえニ
描え四寸しよすん六寸ろくすんふつうニ蒼あざト生なす
七月中しちがつちゆうヨリ追々おひつぎ花はな開ひらル八月はちがつヨリ
桃もも多おほク九月くがつノ末すえニ実み開ひらキ
綿わたヲあらし毎日まいにち巡めぐリて次第しだいニ
取と集あつメ晴天せいてんトテ收とむるもの

木綿ヲ摘採ル圖



大日本物産圖會

扱あつか下したシたる綿わたハ糖とう搥つかホラシ
突つ成なりたり弓ゆみ小掛こかけニあはせ

江戸日本物産通三才力長六名子種一



世所ノ日本物産三島之有地六名有子種一

大日本物産圖會

扱丁したる綿は、攪搥おろし、
 突成とり、弓小掛く、おろし、
 竹の管小巻く、綿筒とし、
 糸車みく糸とし、箕小掛
 きり、より取り、湯みさし、
 臺小掛て、おろし、織織り
 かけ、織する、凡二反用ひる、突
 綿六百目あり、種のみ方三百
 九十目あり、揚のへり、十反より、
 二百目の反物出来上りなり

河内木綿織機之圖



画 大錦町四番地 安藤徳兵衛

大日本物産圖會

和泉國堺浦接網漁魚市之図

梅の花さうらの頃漁くさ網
 と唱へてさうら網とゆふ雷津
 の海よこ捕さりの姿佳甚
 美ちくとすその外紀州の
 近海よりひらく漁舟この浦
 小あつまり環貝と吹く魚
 市のちちりまを知らせ
 買ふもの多く来つて浪花
 京師へ運送す
 和家
 ひまの梅乃浦のさうら網
 一うみうみさうらみひん



和泉國堺浦接網漁魚市之図



和泉國堺浦接網漁魚市之図

大日本物産圖會



攝津國伊丹酒造之圖

酒は我朝往古より造るとも清酒とつくりはれり其文祿慶長もあつたり伊丹近郷の山本氏の發明より其は酒を造るに五斗石を醸せしが年々あつて今伊丹池田兵庫今津より輸出するに万石にて数あるはつとす

大日本物産圖會

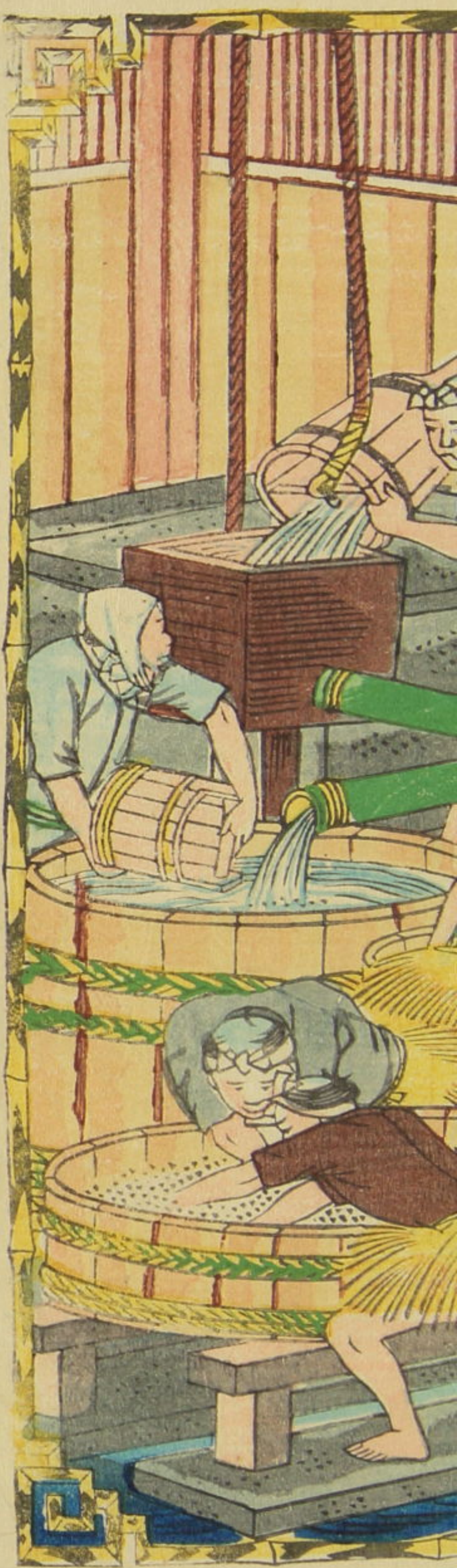


此所ノ酒造ニ至ルニ池田ノ水ヲ用テ

大日本物産圖會

同新酒荷出之圖

酒造ハ白米五斗を以て一ヒト或
 八斗仕廻と立て米を洗ひ蒸し
 糶斗七升水四斗八升ど加多
 初めは桶へ入らば拌廻す麦数度
 ふて又米 糶水を増加すると
 四度都合白米多らばびり麴
 合して八石五斗水四石四斗
 とある日数凡十三四日よま入
 しと蒸成の酒とる後裏
 のと蒸し満して絞りす
 をひ入れて一斗なるに
 収め凡を醸もく廿三四樽を
 作るのり



大日本物産圖會

マワタイト
真綿の絲を取るとき惡
しき繭を撰出しこれと
上灰汁やを煮まより
水漬きして灰汁を出
し指をひき延し別盤
へかける也國々流美多
夫より清水を引のび子
立ち処あり又綿あく水漬
きふに処あり後むら或
ハ繩ふくと干立るなり

陸奥國真綿製之圖



大日本物産圖會



大日本物産圖會

昆布ハ當國北郡今別及
 び津輕辺より出づ海中の
 岩間の石に着て生はるの
 幅一尺おき長十数丈お
 りる淡黄色よりくその
 邊り青黒たりおまはと
 川り干して他邦に出は
 俗に煮て食をれへ面に
 瘡と生せはるは是古昔
 の和方より

同國津輕昆布採之圖



明治十年八月十日

西五大隈川口番地 字表巻五、奇



大日本物産圖會

紙ハ當國大瀧^{タキ}新在家^{シノイヘ}定友^{サダメトモ}老^{ラウ}の諸村^{シヨムラ}産を楮^コと蒸^{シユ}し皮^{クバ}と去^クり水^{ミヅ}ふきし打^ウちと数^{カズ}回^{マヒ}りて水^{ミヅ}ふ和^ワり簀^シの子^コろて瀝^シき場^バ板^{イタ}張^テて乾^{ホシ}上^リる大^{オホ}廣^{ヒロ}五^イ寸^ス廣^{ヒロ}大^{オホ}中^{ナカ}小^コ奉^{ホウ}書^{ショ}色^{シキ}奉^{ホウ}書^{ショ}等^{トウ}の諸^{シヨ}品^{ヒン}あり

越前國奉書紙製之國



大日本物産圖會

海^{ウミ}膽^ニハ當國^{トウクニ}美^ミ加^カ薩^{サク}廣^{ヒロ}大^{オホ}取^{トル}りて名^ナ品^{ヒン}と^シて其^{ソノ}の諸^{シヨ}品^{ヒン}あり



のすゝく 産き場板と張て
 乾上るゝ大廣五寸廣大
 中小奉書色奉書等
 の諸品あり

越前國奉書紙製之國



大日本物産圖會

海膽ハ當國美ノ薩^{サツマ}ノ
 取^ウ取^マり^ノの^ト名^ニ品^トと^シて^モ
 肉^ニ微^シ少^クなる^{モノ}は^膏膏^ニ膏^ニ
 何^ク刺^多く^シて^栗栗^ノの^棗棗^ノ
 小^似似^{たり}漁^入入^干干^汚汚^の
 岩^間間^ふふ^りと^肉肉^と採^り
 桶^ニ取^め盛^に和^して^諸諸^國國^ニ出^して^其其^の味
 甚^と佳^りなり

越前國海膽取之圖



大日本物産圖會

蠟ハ日用必需の品と山漆ハ
 漆ノ天竺桂ノ実等より
 採ルハ蜂ノ巣水蠟樹木より
 取ルものあり當國と漆樹
 よりとる物ハ十月落葉頃
 実ととり白くハ樽箕よ
 て粉と種とを簸り大
 釜の上へ木材と並べ蒸
 布を掲ぐる粉を撒き蒸
 て又麻の俵に入らるる
 却てメホカハれ搾るる

岩代國金澤蠟實採圖



大日本物産圖會



大日本物産圖會

同蠟ヲ製ス圖

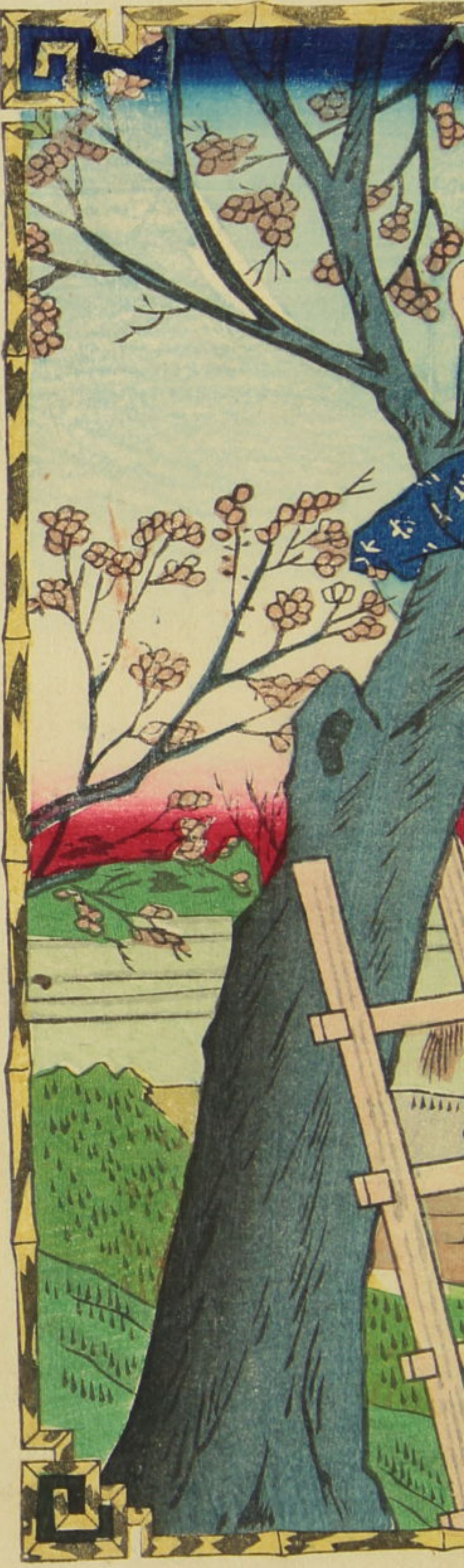
あがろる液を鍋にて
溶し大なる桶へ冷水を汲
その上は穴の穿たる管を
置きとほしる蠟を管の内
へ入るせは穴より漏るを
ひや水の中へをぐるを
とどめつてつるくゆ
庭へちがして日光り
曝しかわらすこと十五六
日のちたさくふつめく
諸國へ出す



蠟を晒す圖

蠟を搾る圖

庭上を晒す



大日本物産圖會



蕎麥の諸國小培養すとい
 ども當國更斗郡と名産
 とす葉ハ三稜はく薄く
 小白花とひらき三稜の突
 とむすぶ初秋小種と下
 冬小のころて川より礪ま
 び死穀を去り脂をひひ
 うけと末おとせり湯に
 て浸ひし目小のへく細
 るくまり輪で食用に
 供ひ

信州蕎麥の製造之図

大日本物産圖會

八ッ目鰻の信州諏訪の
 湖を採るものと名産とす



一は江戸の石川と三島と名産とす



大日本物産圖會

ハツ目鱈ハ信州諏訪の
 湖に採るものと名産とす
 上下の諏訪一里計のあひご
 湖水氷を張つゝあつる上
 小の家と管を漁夫の休
 ふ所とあり氷上り薪
 と積焚て所小穴と穿ち
 延繩共餅を付て釣取ると
 又手掬網をて五班魚を採ら
 る

信濃國水中心目鱈採圖

画工大新町四番地 松林忠兵衛



信州蕎麥切製造之圖

蕎麥のついで川より礪き
 ひた漉し去り踏らひ小
 うけて末粉とあり湯に
 て浸ひ目みのく細
 るくすり輪で食用に
 供は

大日本物産圖會

飛騨國養蠶之圖二

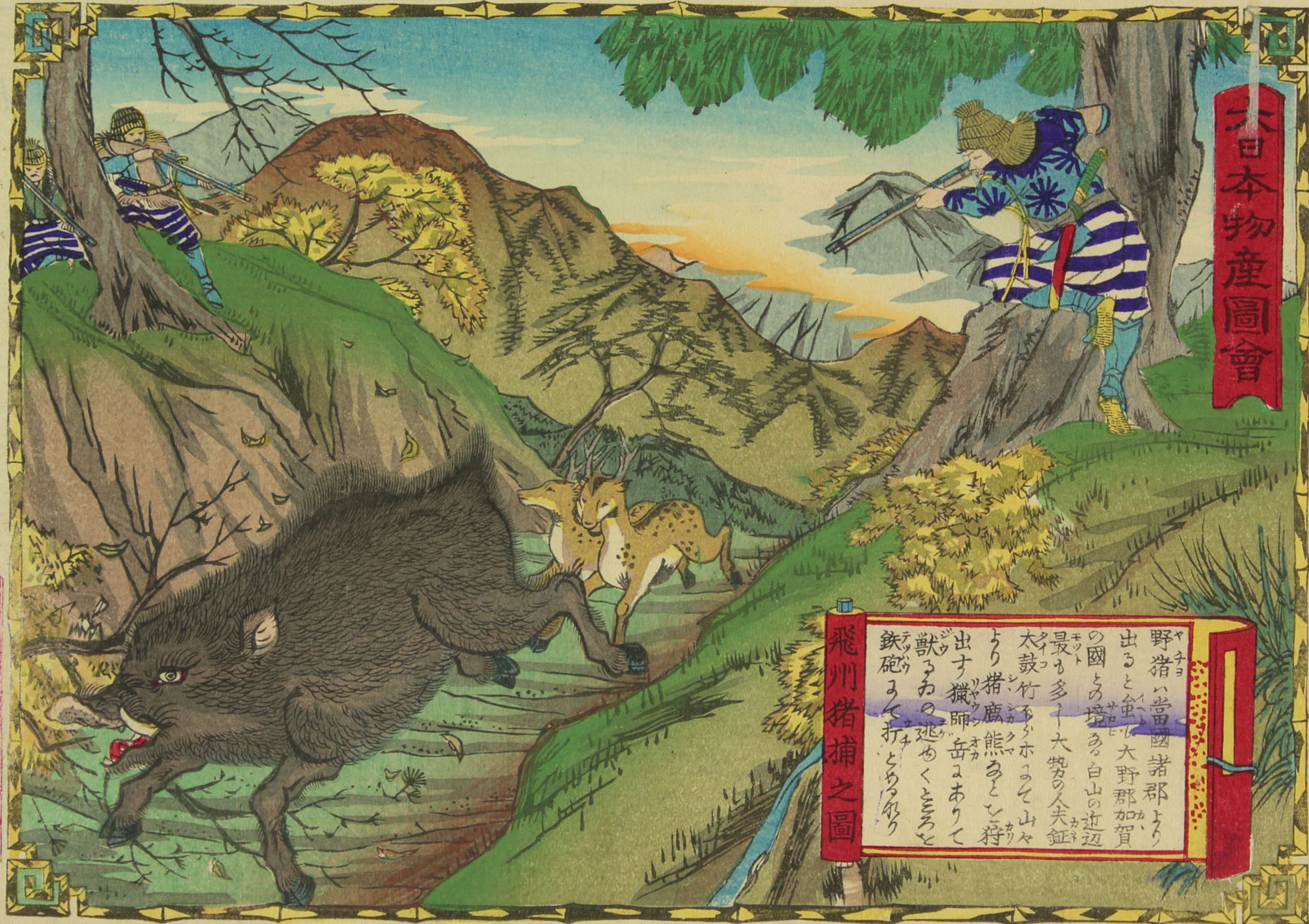
何^{イッ}の年^{トシ}も^モ八^{ヤチ}夜^ヤ前後^{ノチノヘ}
 小^コの蚕^{カイ}生^ナま^ス出^デる^ル少^{コト}し^ク出^デ
 加^カら^リ正^{テイ}午^ノ十二^{ジュニ}時^ジ頃^ノ暖^ノら^ニ
 時^{トキ}と見^ミ合^アせ^セ種^{タネ}と取^ト出^デ一^{ヒト}白^{シロ}紙^{カミ}
 五^イ六^{ロク}枚^ヘと包^ツみ^マく^ク上^ノの^{ウヘ}上^ノに^ニ
 振^ヒ出^デ綿^{ワタ}や^ハ物^{モノ}を^ヲさ^スら^フつ^ツと^ト
 或^シハ^ハ青^{アヲ}柳^{ヤナギ}の^ノ物^{モノ}を^ヲ入^イ
 暖^ノら^ニる^ル處^{トコロ}へ^ニ上^ノが^カあ^キ日^ヒ三^{サン}度^ド
 つ^ツ種^{タネ}と取^トひ^ヒけ^ケ又^マ元^ノの^ノ如^シ
 る^ルや^ハあ^リる^ル子^コを^ヲ蚕^{カイ}と^シて^テ扱^アけ^ケ
 水^{ミヅ}を^ヲ洗^シひ^ヒ清^ス浄^{ジヨウ}と^シ上^ノ言^{コト}と^シて



大日本物産圖會

和月十年八月十日 出島八月十日 三島九月十日 大倉正月十日

野^ヤ猪^ノハ^ハ當^{トウ}國^{クニ}諸^{シヨ}郡^{クニ}より
 出^デる^ルと^シ金^{カネ}大^{ダイ}野^ノ郡^{クニ}加^カ賀^カ
 の^ノ國^{クニ}と^シの^ノ境^{サカイ}を^ヲ白^{シロ}山^{ヤマ}の^ノ近^{チカイ}辺^ヘ
 最^{モト}も^モ多^{タカ}く^ク大^{ダイ}丸^{マル}の^ノ入^イ夫^フ証^{シヨウ}



六日本物産圖會

飛州猪捕之圖
 野猪ハ當國諸郡より
 出ると云ハ大野郡如賀
 の國との境ある白山の近辺
 最も多ク大勢の工夫鉦
 太鼓竹ヲホるて山々
 より猪鹿熊をとつ狩
 出す獵師 岳ニありて
 獸の逃めくとも
 鉄砲にて打とらるり

和伯 明治十年八月十日 出房八日本物産二早女備州六倉親五補



飛驒國養蚕之圖二

大日本物産圖會

何^{イッ}この年^{イッ}おても八^{イッ}八^{イッ}夜^{イッ}前後
 小^{イッ}の蚕^{イッ}生^{イッ}と出^{イッ}る^{イッ}あり蚕^{イッ}少^{イッ}し出^{イッ}
 加^{イッ}ら^{イッ}り正^{イッ}午^{イッ}十二^{イッ}時^{イッ}頃^{イッ}暖^{イッ}ら^{イッ}なる
 時^{イッ}と見^{イッ}合^{イッ}せ種^{イッ}と取^{イッ}出^{イッ}し白^{イッ}紙^{イッ}
 五^{イッ}六^{イッ}枚^{イッ}を^{イッ}包^{イッ}み^{イッ}その上^{イッ}マ
 抜^{イッ}出^{イッ}し綿^{イッ}や^{イッ}う^{イッ}物^{イッ}を^{イッ}さ^{イッ}う^{イッ}と^{イッ}つ^{イッ}み
 或^{イッ}ハ骨^{イッ}柳^{イッ}を^{イッ}さ^{イッ}う^{イッ}物^{イッ}を^{イッ}入^{イッ}
 暖^{イッ}ら^{イッ}る^{イッ}處^{イッ}へ^{イッ}上^{イッ}メ^{イッ}あ^{イッ}き^{イッ}ヨ^{イッ}三^{イッ}度^{イッ}
 律^{イッ}と^{イッ}取^{イッ}ら^{イッ}け^{イッ}又^{イッ}元^{イッ}の^{イッ}如^{イッ}く

此圖一枚前ト重複



大日本物産圖會

野^ヤ猪^チハ當^ノ國^ノ諸^ノ郡^ノより
 出^ルと^シ金^ノ大^ノ野^ノ郡^ノ加^ノ賀^ノ
 の國^ノとの境^ノある白^ノ山^ノの近^ノ辺^ノ
 最^モ多^ク大^ノ勢^ノの入^ル夫^ノ鉦^ノ
 モット
 タイコ

千七百九十一年八月十日
 出展入目録
 大野郡加賀



大日本物産圖會

飛州猪捕之圖

野猪ハ當國諸郡より
出ると云ハ大野郡加賀
の國との境なる白山の近辺
最も多ク大勢の入夫鉦
太鼓竹藪ホマヤ山々
より猪鹿熊多と狩
出す獵師岳ありて
獸の逃めくとも
鉄砲にて打とらるり

明治二十一年八月十日 出版 日本利達三井物産株式会社 大倉野田五番



此圖一故前ト重複

大日本物産圖會

飛騨國養蠶之圖二

何^{イツ}この年^{トシ}あても八^{ヤチ}八^{ヤチ}夜^ヨ前後^{ゴト}
 小^コの蚕^{カイ}生^ナま^タ出^デる^ル多^クり^シ蚕^{カイ}少^クし^ク出^デ
 加^カら^リ正^{テイ}午^ノ十二^ジ時^{トキ}頃^{トキ}暖^{ヌク}ら^ルな^ル
 時^{トキ}と見^ミ合^アせ^セ種^{タネ}と取^ト出^デ一^{ヒト}白^{シロ}紙^{カミ}
 五^イ六^{ロク}枚^ヘを包^ツみ^マく^クその上^ノに
 扱^ツ出^デ綿^{ワタ}や^ウろ^コ物^{モノ}を^カま^りと^ツつ^ツ
 或^シハ骨^{ホネ}柳^{ヤナギ}を^カま^りと^ツつ^ツの物^{モノ}を^カま^り
 暖^{ヌク}ら^ルる^ル處^{トコロ}へ上^ノメ^テあ^まり^ヨ三^{サン}度^ド
 つ^つ種^{タネ}と取^ト出^デら^ルけ^ケ又^マ元^ノの如^ノく
 多^クす^クち^クを^カま^りと^ツつ^ツて^テ蚕^{カイ}を^カま^りと^ツつ^ツ
 水^{ミヅ}と洗^アい^ハひ^ハ清^{セイ}浄^{ジヨウ}と^シ言^イは^ス
 水^{ミヅ}と洗^アい^ハひ^ハ清^{セイ}浄^{ジヨウ}と^シ言^イは^ス



大日本物産圖會

野^ヤ猪^チハ當^{トウ}國^{クニ}諸^{シヨ}郡^{クニ}より
 出^デる^ルと^シ金^{カネ}は^ハ大^{ダイ}野^ノ郡^{クニ}如^ノ賀^カ
 の國^{クニ}との境^{サカイ}ある^ル白^{シロ}山^ノの近^{チカ}辺^ヘ
 最^{モト}も多^クく大^{ダイ}勢^{セイ}の^ノ入^イ夫^フ鉦^シ

出^デる^ル日^ヒ本^{ニッポン}物^{モノ}産^{サン}圖^ズ會^{カイ} 出^デる^ル日^ヒ本^{ニッポン}物^{モノ}産^{サン}圖^ズ會^{カイ}

